

# 司法試験、公認会計士試験、国家公務員採用I種試験の「2010年度合格者祝賀会」

## 難関突破の合格者を祝う

司法試験、公認会計士試験、国家公務員採用I種試験の「2010年度合格者祝賀会」が12月13日、神田キャンパスで開かれた。日高義博理事長・学長、ゼミの指導教員ら約70人が出席した。難関を突破した合格者たちに専修大学と法曹会、会計人会から記念品が贈られた。写真。

今年度は旧司法試験に1人、新司法試験に19人、公認会計士試験に在学学生7人を含む18人が合格したほか、国家公務員採用I種試験に大学院生1人が合格した。



◆公認会計士試験  
梅田由さん(商3)、伊藤和恵さん、神奈川百合丘(高)  
◆司法試験合格者  
金子和さん(商3)、千葉(高)

### 10年度「公認会計士試験」合格者

本新・旧司法試験合格者の結果は10、12月号に掲載  
(カッコ内は在学・卒業年次、所属ゼミ、出身高)  
金子和さん(商3、千葉)  
梅田由さん(商3、伊藤和恵さん、神奈川百合丘(高))  
泉館林商(高)

### 現役合格者の言葉

#### 勉強量の把握を意識した

梅田 由さん(商3)  
入学後に会計士講座の存在を知り、公認会計士を目指してみようと思いましたが、1年次から「計」に集中して努力し続けなければならず受かります。

#### 計修会での勉強が結実

金子 和弘さん(商3)  
量と同時に効率性も重視して勉強しました。疑問点はすぐに質問するのではなく、自分なりの答えを考えてから質問することを心がけました。

#### 大切なのは集中と継続

橋本 浩樹さん(商3)  
計学が得意で、公認会計士を目指してききました。「受けるからには一発で合格」という高い目標を定め、集中して勉強に取り組みました。

#### 情報を一つにまとめる

渡邊 昌博さん(経済4)  
時間が限られていた中で、勉強方法にはこだわりました。目指したのは、情報を一つにまとめるということです。

#### 明確な学習目標を設定

徳永 祥吾さん(経営4)  
間、追い込み期には15時間勉強しました。合格に導いたのは、「精神力」です。

#### 仲間を支えられ継続学習

池津 史貴さん(商4)  
毎日すべての教科書を読み、苦手な科目をつくらず、一度理解したものは忘れないよう繰り返し勉強することが知識の蓄積につながったと思います。

田原秋田南高  
佐藤裕喜さん(平21経営)  
宮城県立高  
伊東まりかさん(平21商)  
奥村輝夫さん(平18経営)  
中尾有沙さん(平20商、夷谷廣政さん(平16商、秋高))  
群馬県前橋商高

## 計修会から7人 公認会計士試験合格祝賀会開く



12月19日、計修会(専修大学公認会計士試験研究室)の公認会計士試験合格祝賀会が、神田キャンパス近くの会場で開かれました。本年度、専修大学全体の同試験合格者18人のうち、計修会に所属していたのは7人(うち現役生2人)でした。  
当日は内野明商学部長、来賓の先生方、OB・OG、さらにエグゼクティブ・セッション主催の「会計士講座」で指導している平澤哲・佐々木重人

支えになりました。先輩果がなかったこともありましたが、同じ志を持って継続して当たるのが大切だと感じました。  
アウトプット重視の学習  
小坂 明裕さん(商4)  
何度か繰り返し読みました。ポイントを重点的に抑え、内容を把握できたら、ひたすら問題をこなす「アウトプット重視」の学習を心がけました。  
将来はIT監査もやりたいという思い、英語力を磨いて国際舞台にも出てみたいと思っています。

## 専大とともに 神田神保町探索



### 御菓子処「さゝま」

茶道に精通する笹間芳彦さんと趣のある店内  
書店やスポーツ用品店が軒を連ねる靖国通り。駿河台下交差点の直近に御菓子処「さゝま」がある。引き戸を開けると、店内の凛としたたたずまいに思わず背筋が伸びる。  
中央のガラスケースには、季節を彩る生菓子と干菓子。花びら餅、紅梅、若竹、値引き松、雪輪……訪問した12月末は、新年を祝う和菓子13種が並んだ。左横には、通年商品の松葉羊羹。右横には、松葉羊羹が大好きの進物用に加え、我が家にも「と、大きな包を抱えた女性客。福岡から上京したという。同店は、お茶席用の菓子店として名高い。文化人に愛され、一般ファンも多い。仏紙「モンド」の記者も通いつめた。特に、小ぶりの松葉羊羹は人気の逸品。程よい甘さのこしあんが、柔らかめの皮と口の中で溶ける。  
素材はすべて自家製。一つひとつが熟練の職人によって丁寧に作られる。「生菓子以外は、閉店時間まで注文に応じます。『完売御礼』はお客様に失礼と、和服姿の店主、笹間芳彦さん。  
1929年、芳彦さんの父親、先代・繁さんが神田小川町に「ササマ」パン店を開業。普通のパンに飽き足らず、当時は珍しいカレーパンやみつめパンを並べた。2年後、現在の地に本格的な和菓子店を開店した。芳彦さんは、早稲田大学卒業後、繁さんから店を継いだ。引き継ぎは「あとは任せろ」という一言だけ。学生時代から国内外を旅して回り、「心をこめて作ったものは、国籍を問わず支持される」と実感。「オンラインワン」を信条にした。「損得で動くのはつまらない。それよりもお客さまの満足した笑顔」と、製造機械化や百貨店進出に背を向けてきた。「さゝま」のお菓子は、駿河台下でしか手に入ることができない。  
「学生時代は自己を磨き高める貴重な時期。就職難を嘆く前に、やらなければならぬことがあるはずですよ。」  
水御菓子処「さゝま」  
東京都千代田区神田神保町1丁目23番03・3294・0978 9時30分〜18時。日曜・祭日休み。

### オンリーワン貫く「損得よりお客様の笑顔」

竹林が目印の「さゝま」の店頭  
「学生時代は自己を磨き高める貴重な時期。就職難を嘆く前に、やらなければならぬことがあるはずですよ。」  
水御菓子処「さゝま」  
東京都千代田区神田神保町1丁目23番03・3294・0978 9時30分〜18時。日曜・祭日休み。